

土岐市人権に関する市民意識調査（概要）

令和 2 年 12 月 8 日

第 1 回 土岐市人権施策推進指針策定委員会

1. 調査の概要

（1）目的

平成 23 年に策定した「土岐市人権施策推進指針」の期間満了を迎えるにあたり、指針の改定及び今後の人権施策の参考とするために、人権に関する市民意識調査を実施。

（2）調査対象及び調査方法

令和 2 年 6 月 1 日の住民基本台帳を基に、20 歳以上の市民 2,000 人を無作為抽出し、調査票を郵送により送付し、返信用封筒により回答。

（3）調査実施期間

発 送：令和 2 年 6 月 8 日（月）

回答期限：令和 2 年 6 月 26 日（金）

（4）回収状況

発 送 数： 2,000 件 （宛名不明等の返送数：5 件）

回 答 数： 931 件

回 収 率： 46.6%

（5）過去の調査との比較

同様の調査を以下のように実施しており、過去の調査との比較として記載。

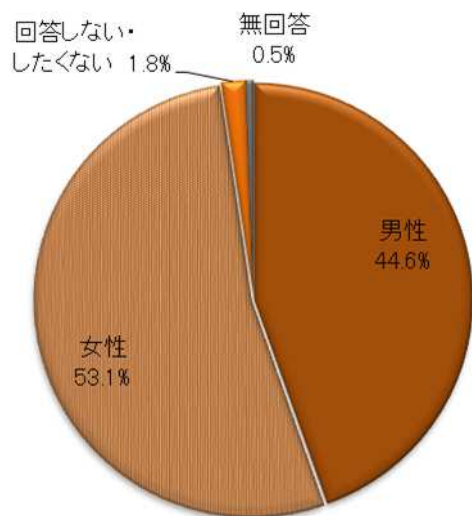
	実施時期	発送数	回答数	回収率
平成 21 年度調査	平成 21 年 10 月	2,000 件	1,070 件	53.6%
平成 27 年度調査	平成 27 年 8 月～9 月	2,000 件	783 件	39.2%

（6）その他

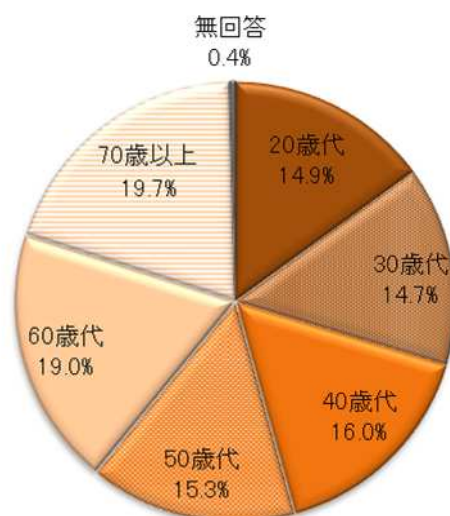
- ・比率は小数点以下第 2 位を四捨五入して算出しているため、合計が 100%にならないことがある。
- ・図中に回答実数を「N」として掲載し、「N」を母数とした割合を表記。

2. 回答者の属性

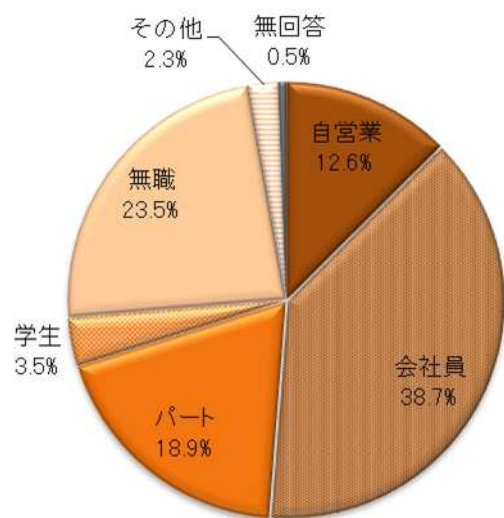
問1 性別



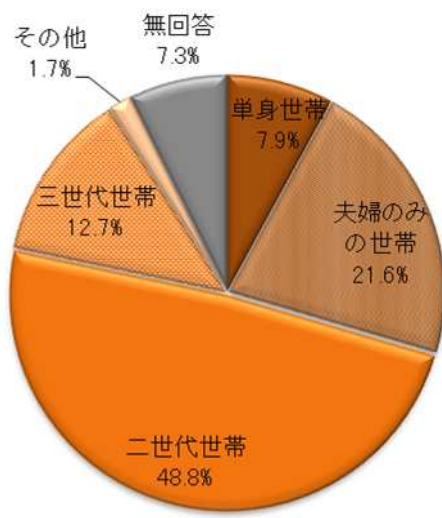
問2 年齢



問3 職業



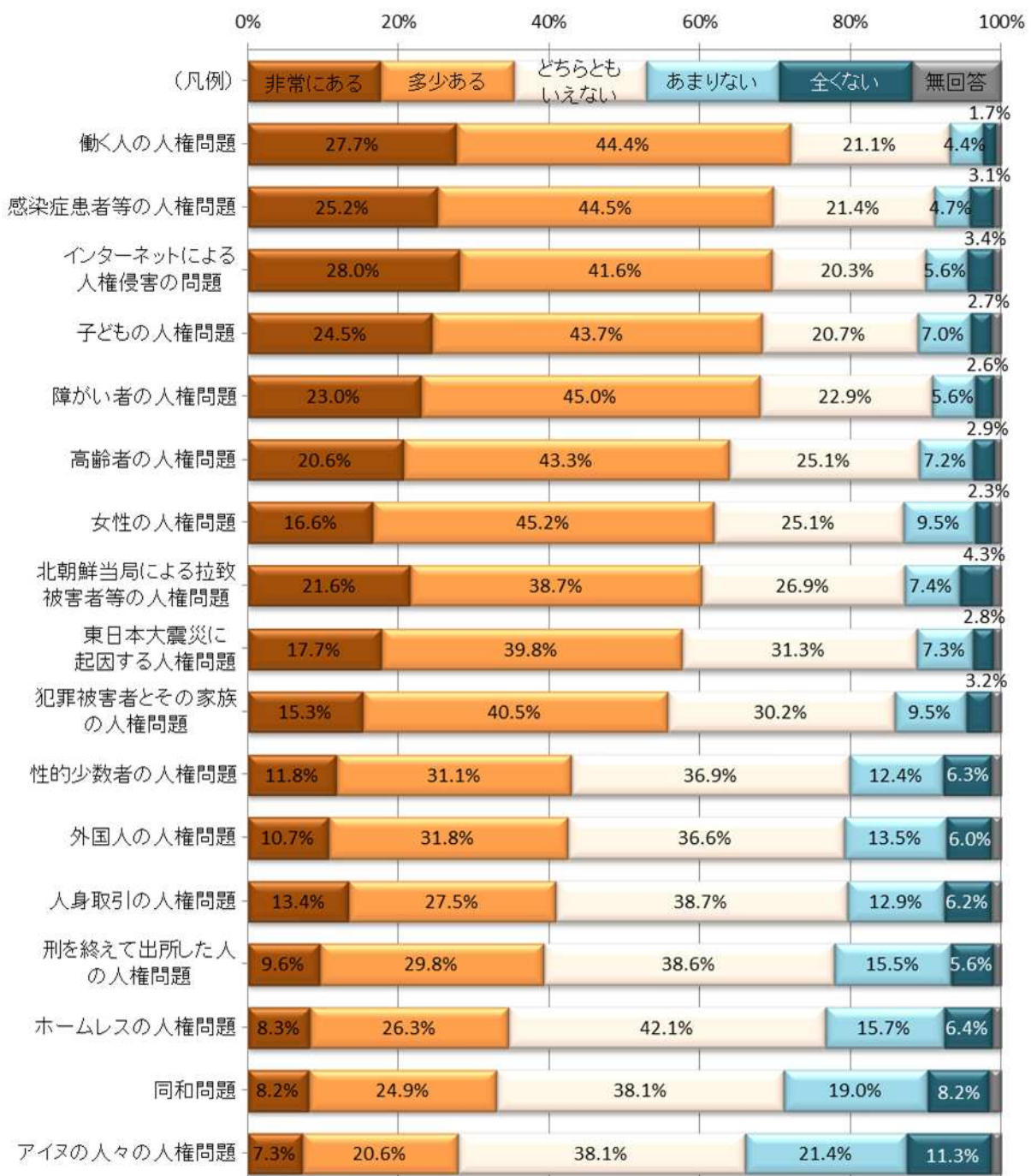
問4 世帯構成



3. 人権意識について

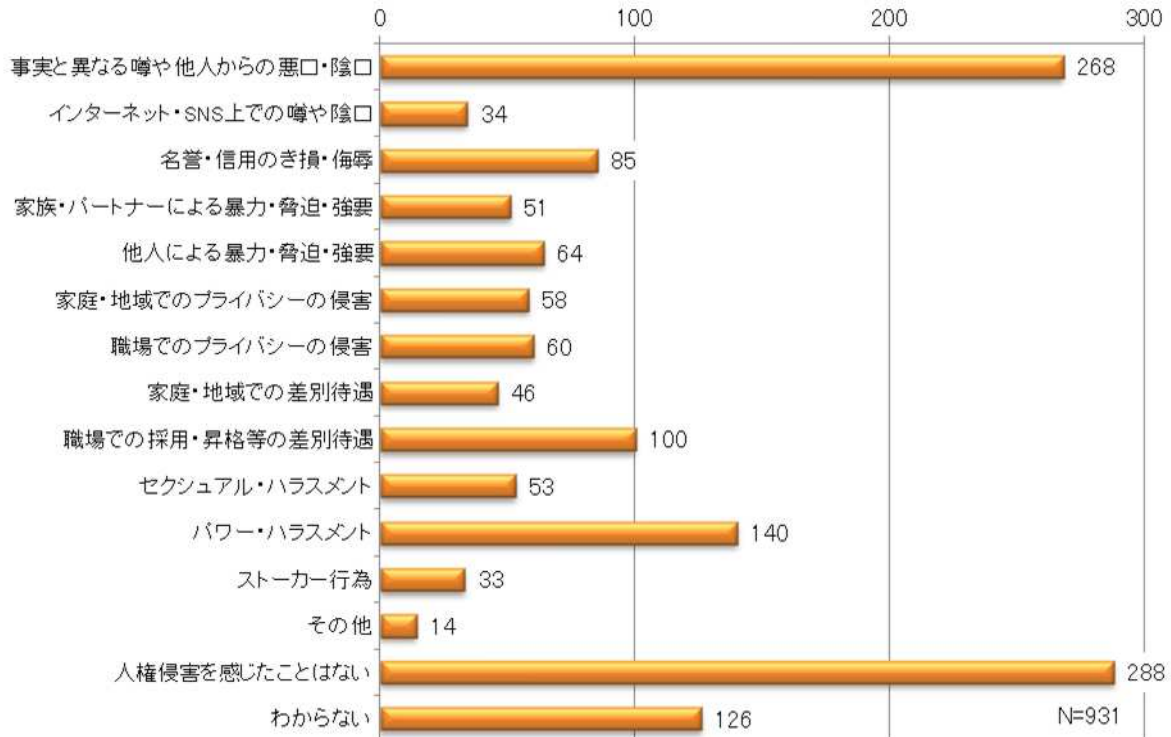
問5 人権問題の関心度合い

- 最も関心が高い（非常に関心がある＋多少関心がある）のは『働く人の人権問題』で、『感染症患者等の人権問題』、『インターネットによる人権侵害の問題』と続く
- 関心が低いのは『アイヌの人々の人権問題』
- 過去の調査と比較すると、新型コロナウイルスの影響もあり『感染症患者等の人権問題』の割合が大きく増加
- 性別・年齢で最も関心のある人権項目は変わり、男女間で最も関心度合いの違いが見られたのは『女性の人権問題』で女性の割合が高く、世代間では『北朝鮮当局による拉致被害者等の人権問題』で年齢が高くなるほど割合が高い



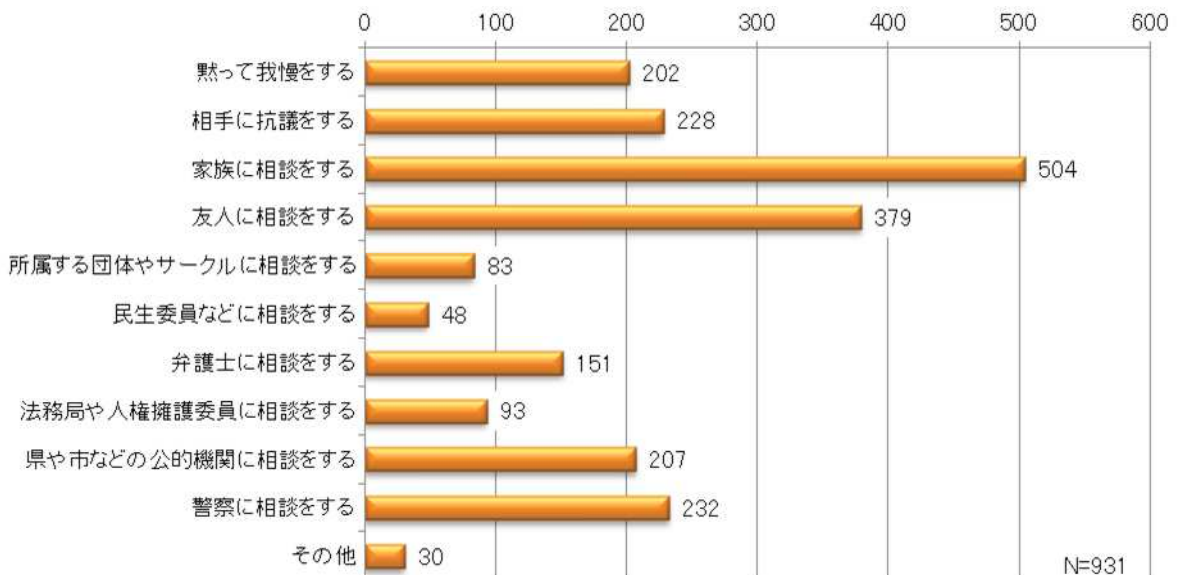
問6 人権侵害を受けた経験

- 『人権侵害を感じたことはない』が最も多い
- 受けたと感じた内容については、『事実と異なる噂や他人からの悪口・陰口』が最も多い
- 過去の調査と比較すると、大きな違いはないが、『セクシュアル・ハラスメント』の割合が増加
- 20歳代では『インターネット・SNS上での噂や陰口』の割合が他の年代よりも大幅に高い



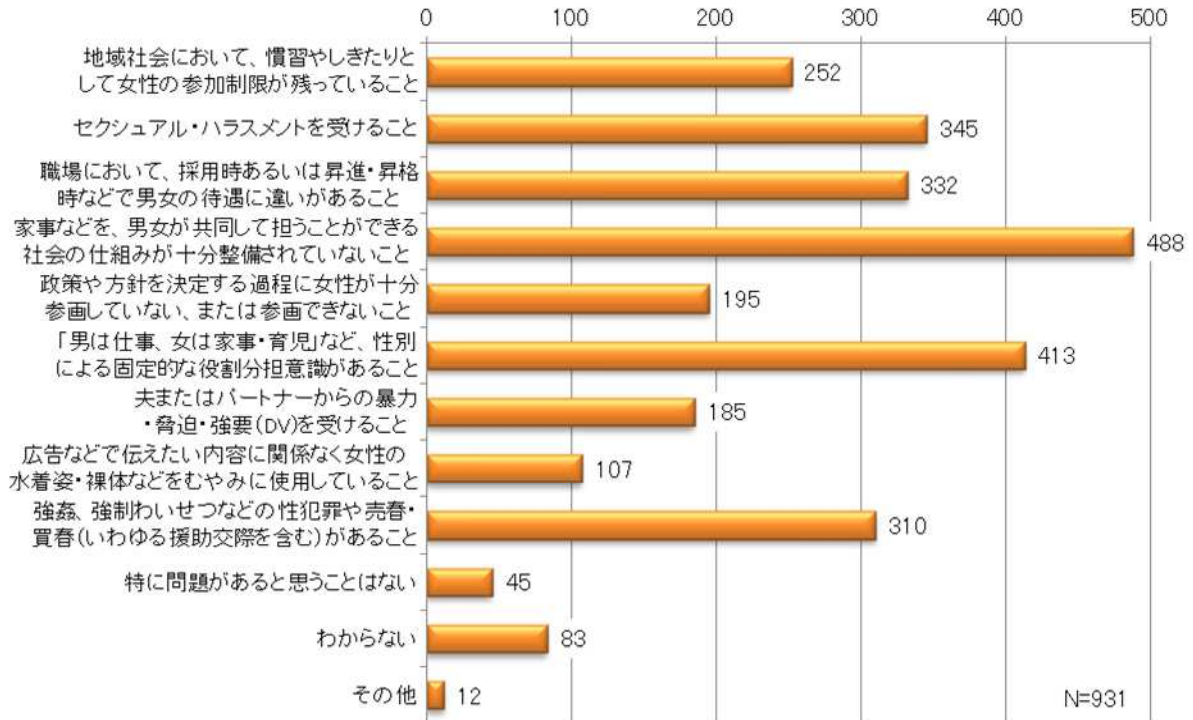
問7 人権侵害を受けた場合の対応

- 人権侵害を受けた場合の対応としては『家族に相談をする』が最も多い
- 過去の調査と比較すると、『家族に相談をする』の割合が増加
- 性別では、男性は『相手に抗議する』の割合が高く、女性は『家族に相談する』の割合が高い



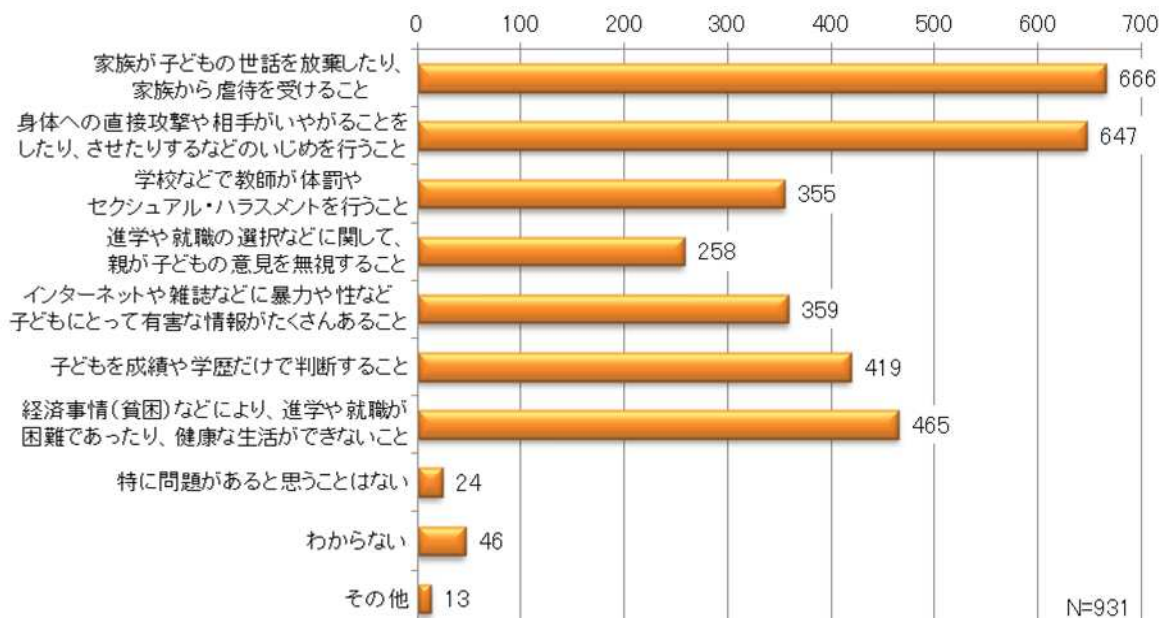
問8 女性の人権問題について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『家事・育児や介護などを男女が協働して担うことができる社会の仕組みが十分整備されていないこと』
- 過去の調査と比較すると、『「男は仕事、女は家事・育児」など、性別による固定的な役割分担意識があること』の割合が増加
- 若い世代ほど『「男は仕事、女は家事・育児」など、性別による固定的な役割分担意識があること』の問題意識が高い



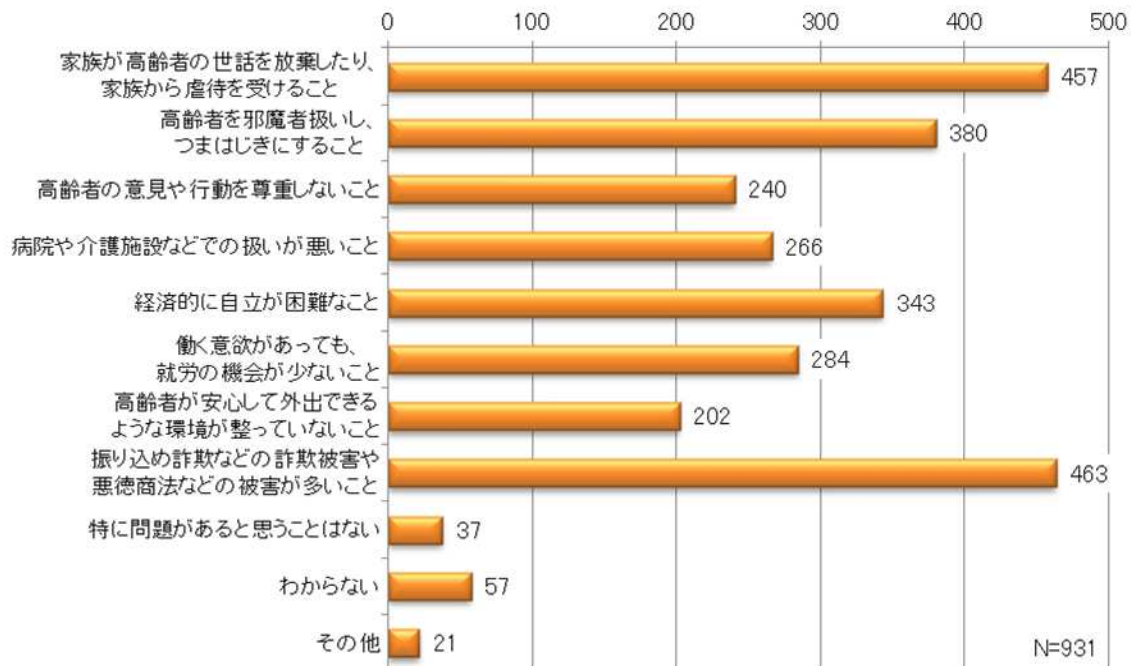
問9 子どもの人権問題について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『家族が子どもの世話を放棄したり家族から虐待を受けること』
- 過去の調査と比較すると、『学校などで教師が体罰やセクシュアル・ハラスメントを行うこと』の割合が増加
- 子育て世代である30代の回答数が多く、特に『進学や就職の選択などに関して、親が子どもの意見を無視すること』の割合が他の年代よりも高い



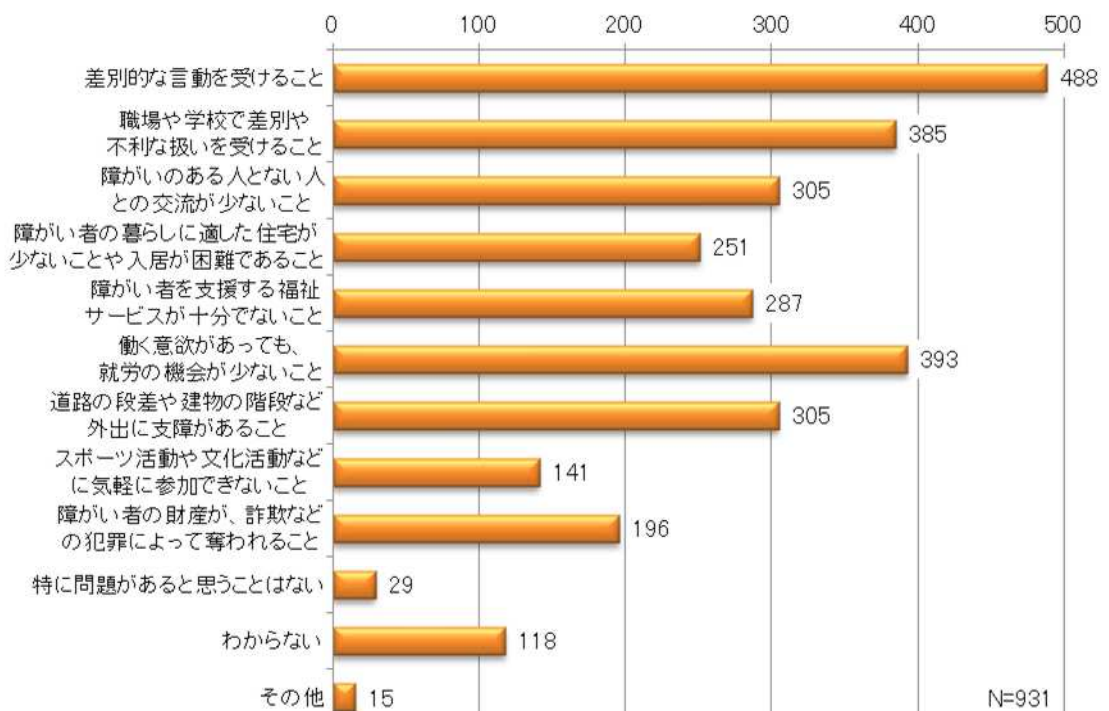
問 10 高齢者の人権問題について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『振り込め詐欺などの詐欺被害や悪徳商法などの被害が多いこと』
- 過去の調査と比較すると、『家族が高齢者の世話を放棄したり、家族から虐待を受けること』の割合が増加
- 70歳以上では『高齢者の意見や行動を尊重しないこと』の割合が他の年代よりも高い



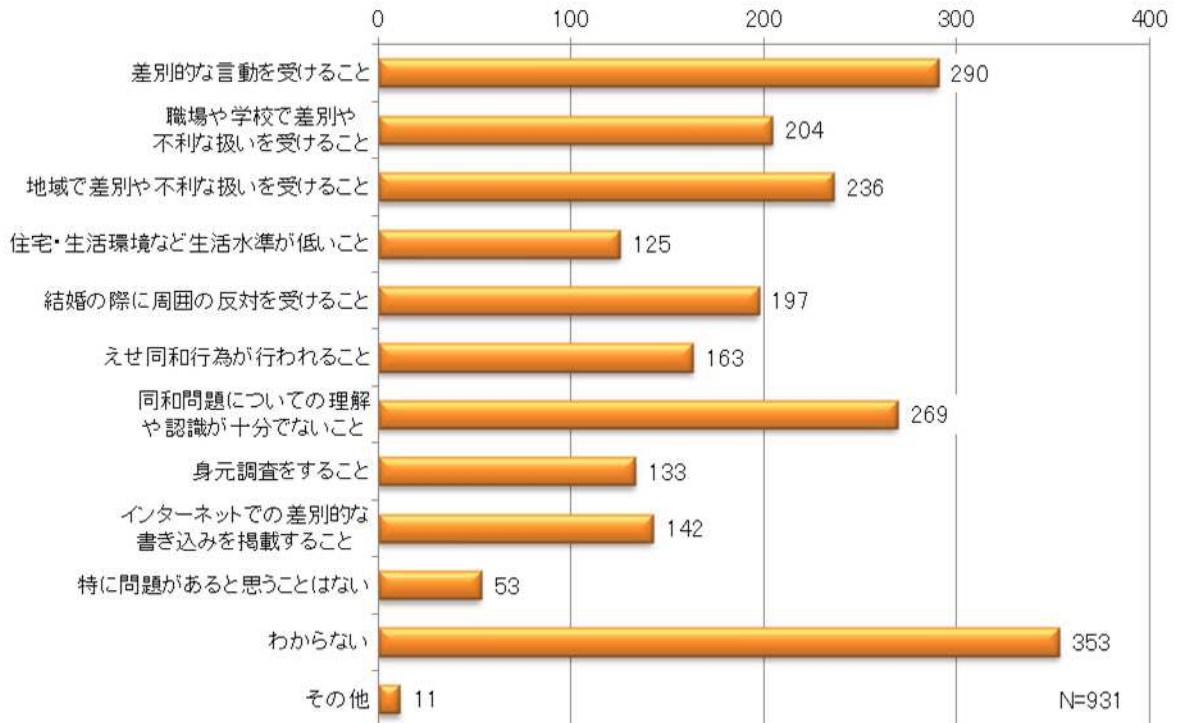
問 11 障がい者の人権問題について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『差別的な言動を受けること』
- 過去の調査と比較すると、『障がい者の財産が、詐欺などの犯罪によって奪われること』の割合が増加
- 『差別的な言動を受けること』の割合は、20歳代は他の年代よりも高く、70歳以上は低い



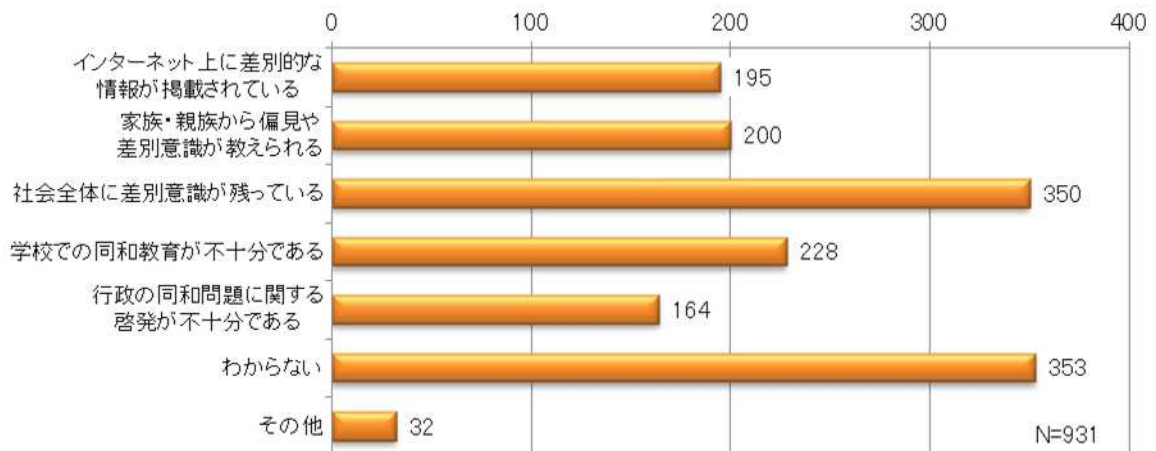
問 12 同和問題について、特に問題があると思うこと

- 問題があると思うことは『わからない』が最も多く、次いで『差別的な言動を受けること』
- 過去の調査と比較すると、『同和問題についての理解や認識が十分でないこと』の割合が減少し、『差別的な言動を受けること』の割合が増加
- 70歳以上では『特に問題があると思うことはない』の割合が他の年代よりも高い



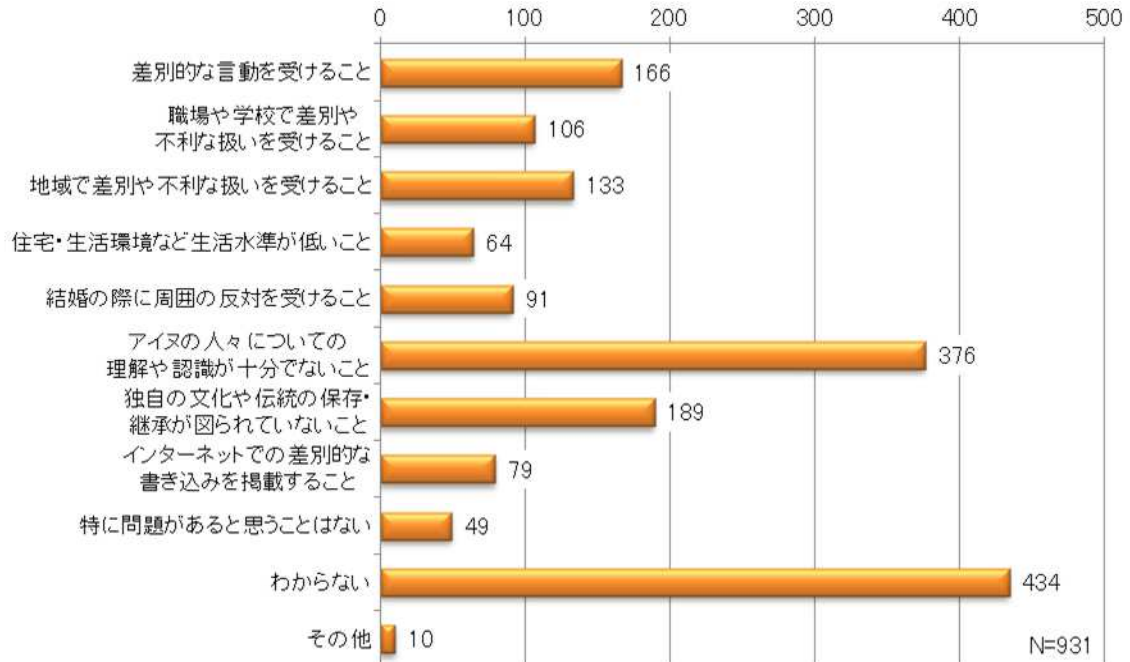
問 13 現在も同和問題が存在している理由

- 現在もなお同和問題が存在している理由については『わからない』が最も多く、『社会全体に差別意識が残っている』が続く
- 『インターネット上に差別的な情報が掲載されている』及び『家族・親族から偏見や差別意識が教えられる』では年齢が高くなるにつれ、割合が低くなる傾向



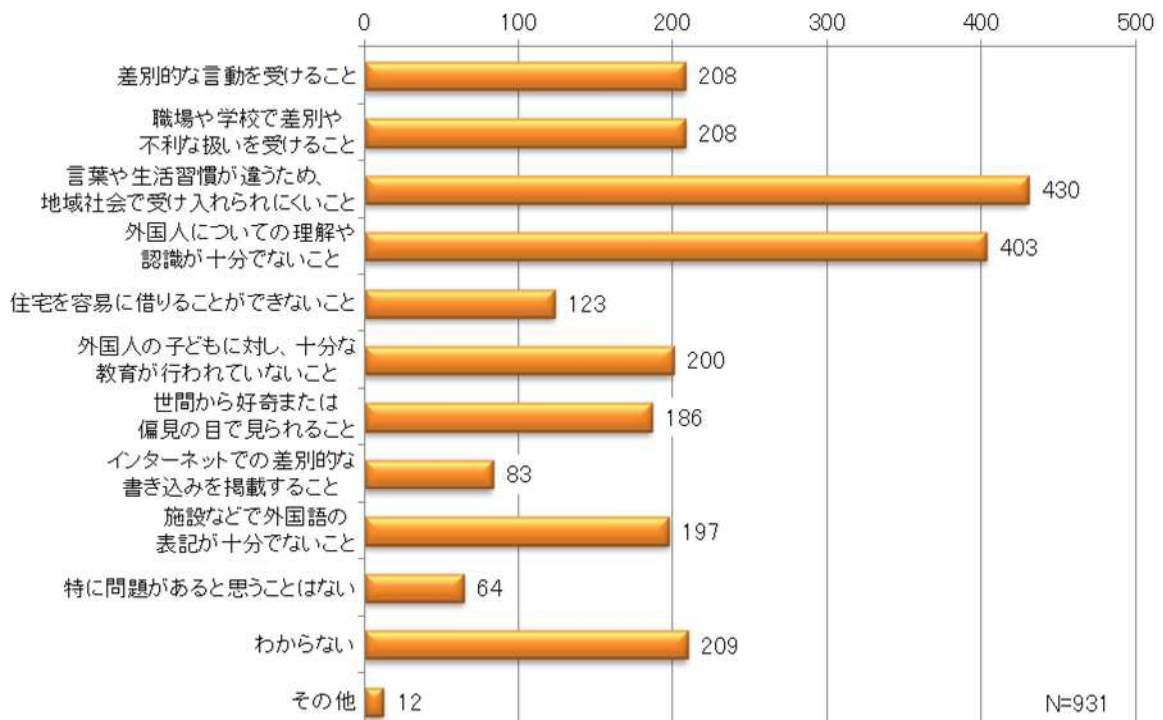
問 14 アイヌの人々の人権問題について、特に問題があると思うこと

- 問題があると思うことは『わからない』が最も多く、次いで『アイヌの人々についての理解や認識が十分でないこと』
- 過去の調査と比較すると、『特に問題があると思うことはない』の割合が減少
- 50歳代では『結婚の際に周囲の反対を受けること』の割合が他の年代よりも高い



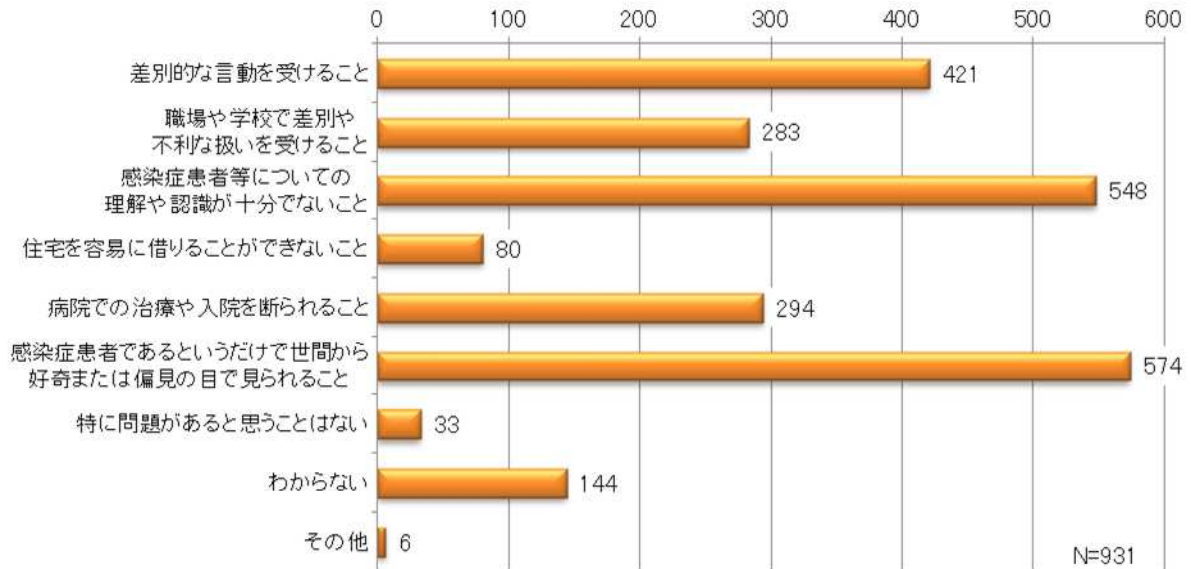
問 15 外国人の人権問題について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『言葉や生活習慣が違うため、地域社会で受け入れられにくいこと』、次いで『外国人についての理解や認識が十分でないこと』
- 過去の調査と比較すると、『特に問題があると思うことはない』の割合が減少
- 30歳代以下の若い世代で『差別的言動を受けること』及び『職場や学校で差別や不利な扱いを受けること』の割合が他の年代よりも高い



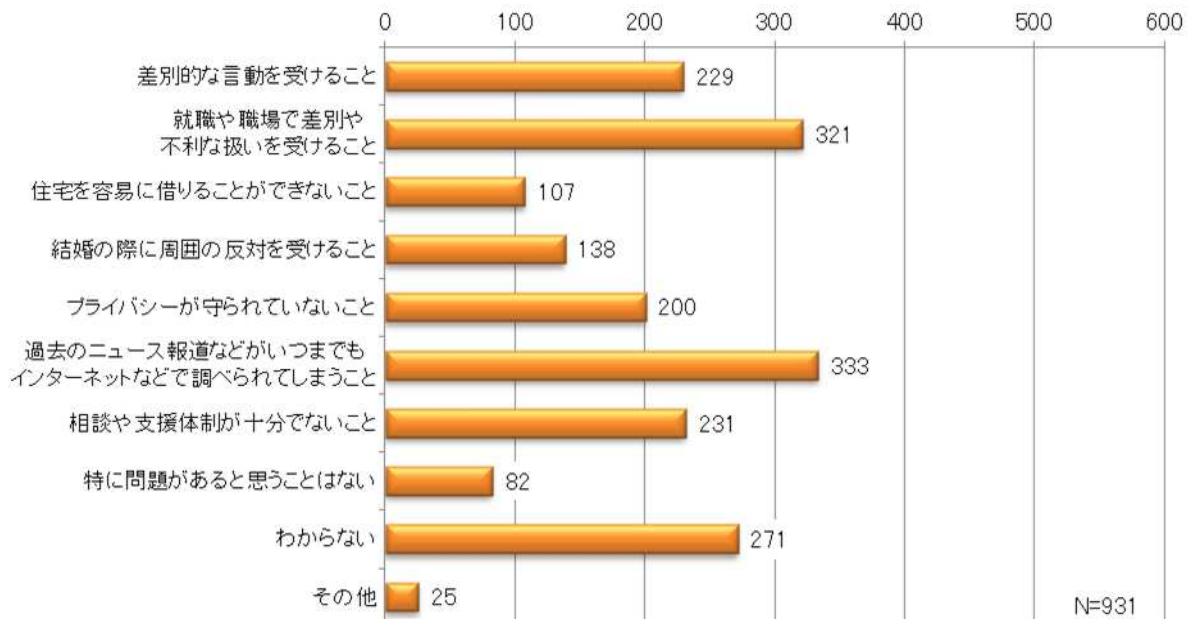
問 16 感染症患者等の人権問題について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『感染症患者であるということだけで世間から好奇または偏見の目で見られること』、次いで『感染症患者等についての理解や認識が十分でないこと』
- 過去の調査と比較すると、『差別的な言動を受けること』及び『病院での治療や入院を断られること』で割合が増加
- 『感染症患者であるということだけで世間から好奇または偏見の目で見られること』については女性の割合が高くなっており、男女間の意識の差が大きい



問 17 刑を終えて出所した人の人権問題について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『過去のニュース報道などがいつまでもインターネットなどで調べられてしまうこと』、次いで『就職や職場で差別や不利な扱いを受けること』
- 20歳代では『プライバシーが守られていないこと』の割合が突出して高い



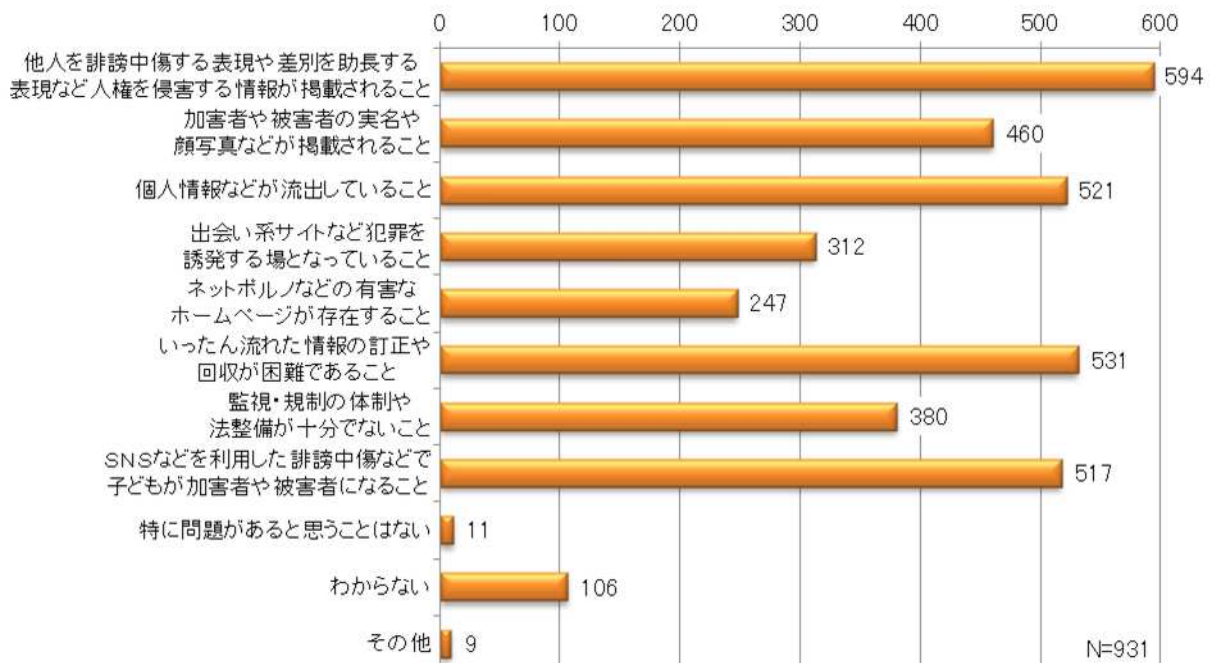
問 18 犯罪被害者とその家族の人権問題について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『報道によってプライバシーが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること』
- 過去の調査と比較すると、『報道によってプライバシーが公表されたり、取材によって私生活の平穏が保てなくなること』及び『わからない』で割合が減少
- 『犯罪行為によって精神的なショックを受けること』は30歳代で最も割合が高く、年代間の意識の差が最も大きい



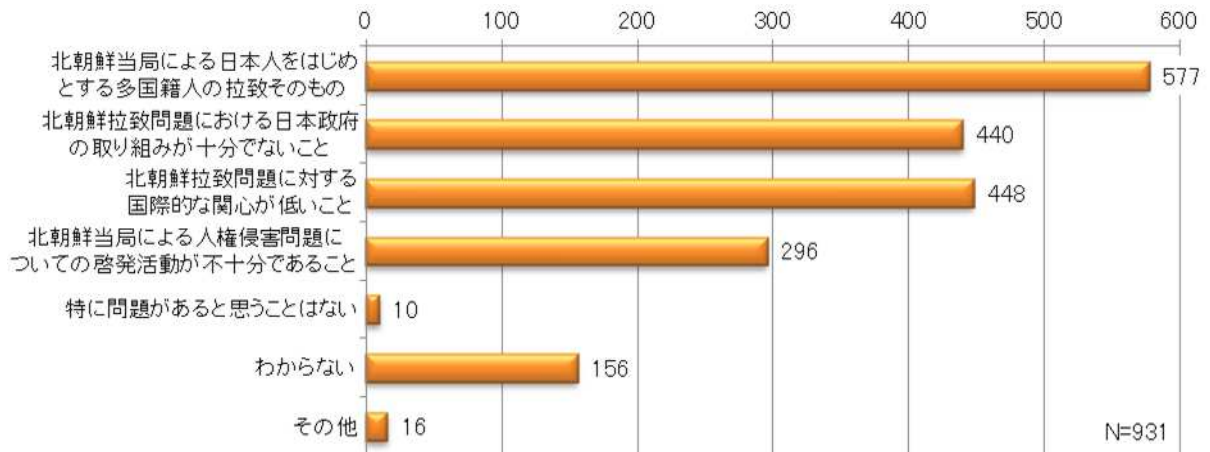
問 19 インターネットによる人権侵害について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『他人を誹謗中傷する表現や差別を助長する表現など人権を侵害する情報が掲載されること』
- 過去の調査と比較すると、『加害者や被害者の実名や顔写真などが掲載されること』の割合が増加
- 30歳代ではいずれの項目も他の年代よりも割合が高い



問 20 北朝鮮当局による拉致被害者等の人権侵害問題について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『北朝鮮当局による日本人をはじめとする多国籍人の拉致そのもの』
- 過去の調査と比較すると、『北朝鮮当局による人権侵害問題についての啓発活動が不十分であること』の割合が増加
- 『北朝鮮拉致問題における日本政府の取り組みが十分でないこと』、『北朝鮮拉致問題に対する国際的な関心が低いこと』及び『北朝鮮当局による人権侵害問題についての啓発活動が不十分であること』では年齢が高くなるにつれ、割合が高くなる傾向



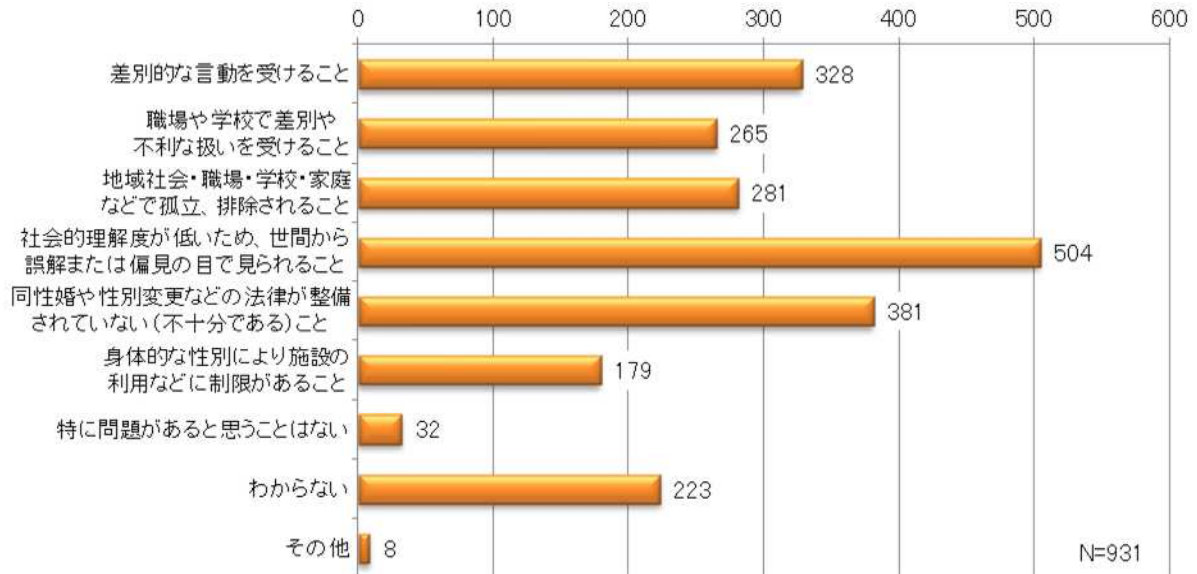
問 21 ホームレスの人権問題について、特に問題があると思うこと

- 特に問題があると思うことは『就職することが難しく、経済的な自立生活が営めないこと』
- 過去の調査と比較すると、『ホームレスに対する犯罪行為が行われること』の割合が増加
- 性別・年齢による大きな傾向の差は見られない



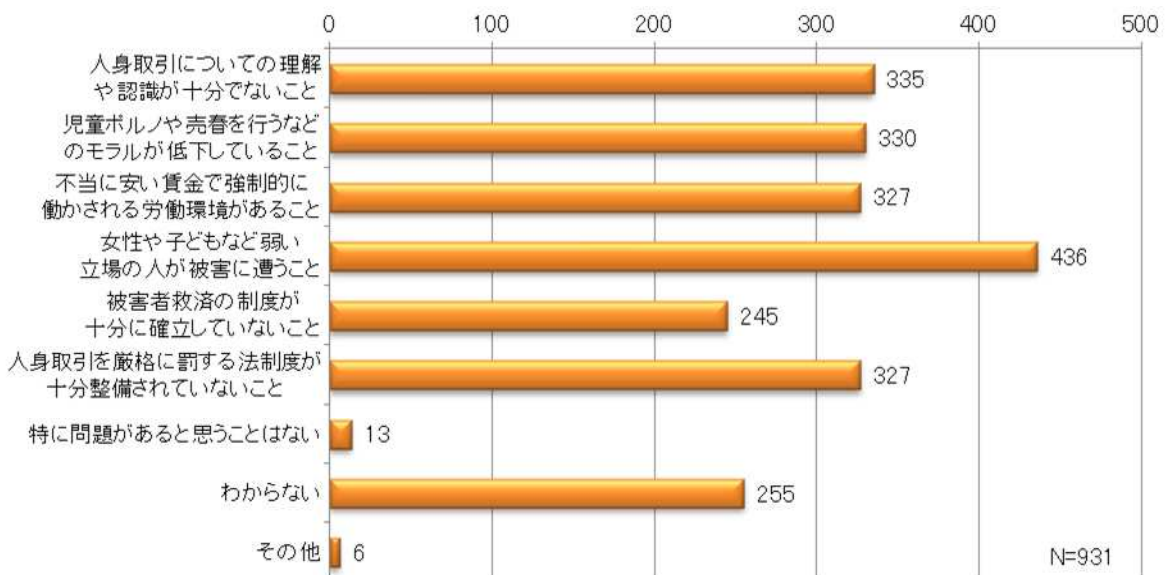
問 22 性的少数者の人権問題について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『社会的理解度が低いため、世間から誤解または偏見の目で見られること』
- 過去の調査と比較すると、『特に問題があると思うことはない』及び『わからない』の割合が減少し、その他の項目は全般的に割合が増加
- 全般的に 30 歳代以上は年齢が高くなるにつれ、割合が低くなる傾向



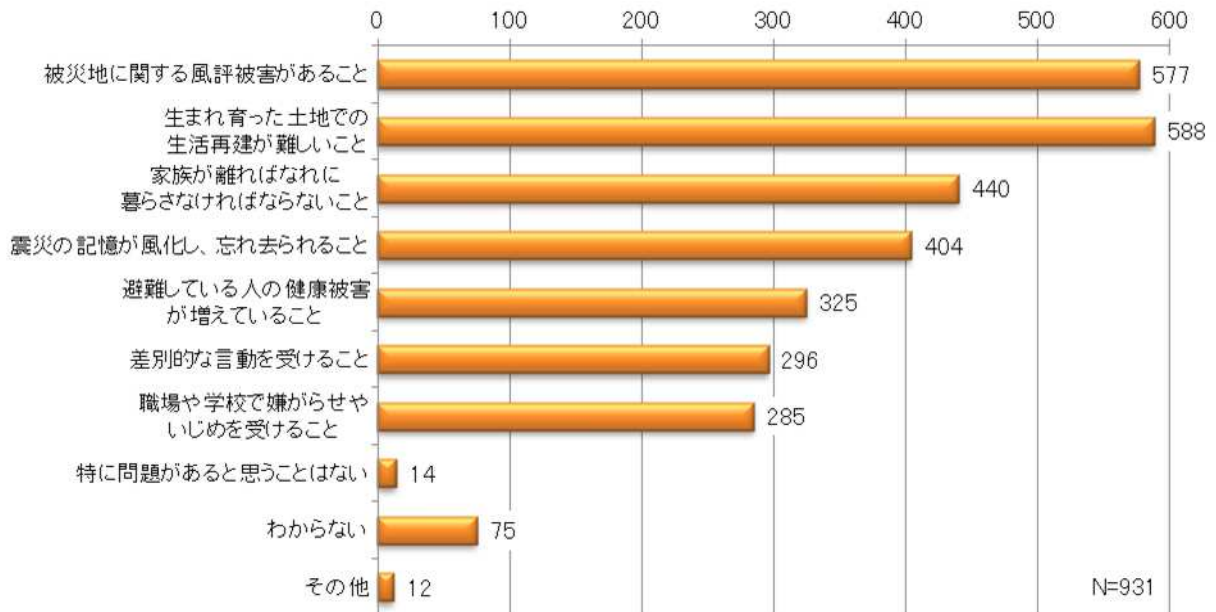
問 23 人身取引について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『女性や子どもなど弱い立場の人が被害に遭うこと』
- 過去の調査と比較すると、『被害者救済の制度が十分に確立していないこと』の割合が増加
- 30 歳代で『人身取引についての理解や認識が十分でないこと』の割合が他の年代よりも高い



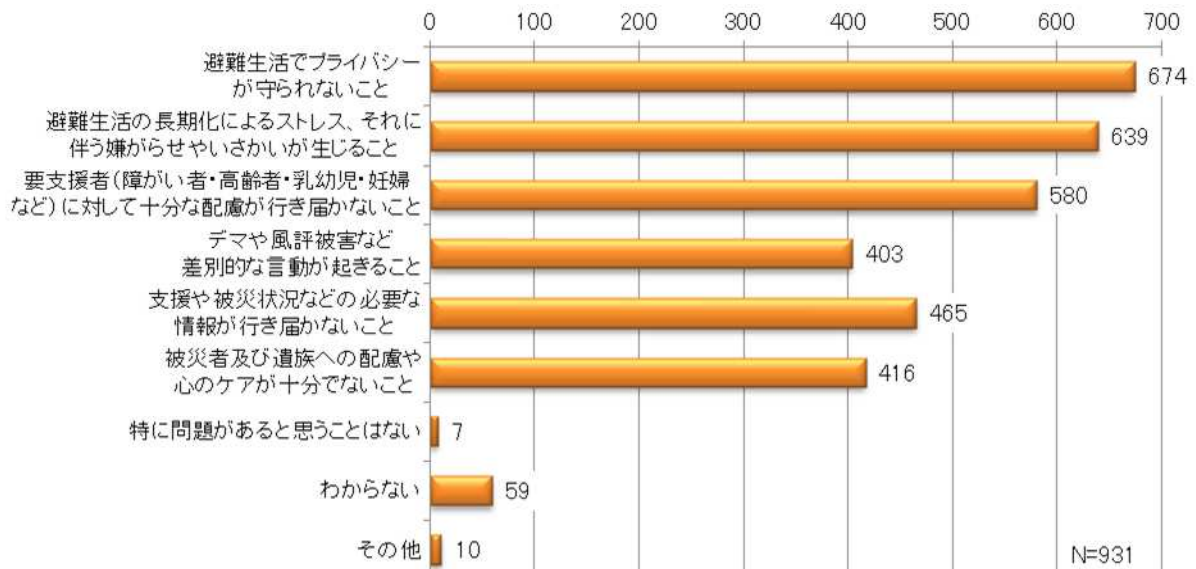
問 24 東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生により、特に被害者の方に起きている人権問題について、特に問題があると思うこと

- 東日本大震災やそれに伴う福島第一原子力発電所の事故の発生による人権問題としては『生まれ育った土地での生活再建が難しいこと』が最も多い
- 過去の調査と比較すると、『職場や学校で嫌がらせやいじめを受けること』及び『差別的な言動を受けること』の割合が増加
- 『震災の記憶が風化し、忘れ去られること』及び『避難している人の健康被害が増えていること』では年齢が高くなるにつれ、割合が高くなる傾向



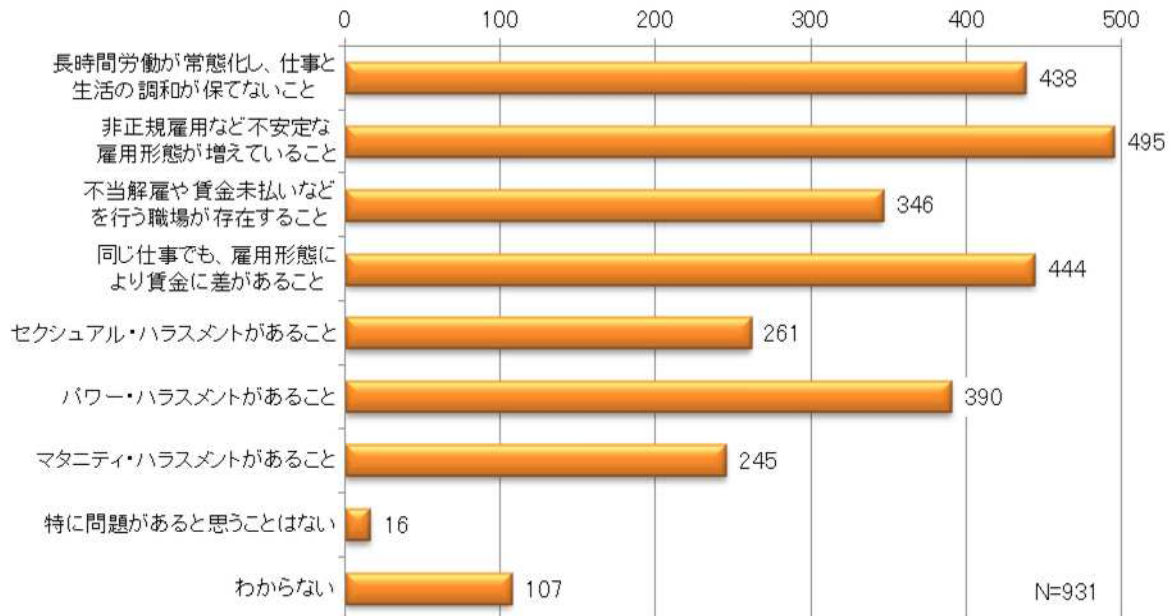
問 25 大規模災害により被災し、避難生活となった場合に起きる人権問題について、特に問題があると思うこと

- 大規模災害により被災し、避難生活となった場合の人権問題としては『避難生活でプライバシーが守られないこと』が最も多く、『避難生活の長期化によるストレス、それに伴う嫌がらせやいさかいが生じること』が続く
- 『要支援者（障がい者・高齢者・乳幼児・妊婦など）に対して十分な配慮が行き届かないこと』及び『避難生活でプライバシーが守られないこと』で女性の割合が男性を大きく上回る



問 26 働く人の人権問題について、特に問題があると思うこと

- 最も問題があると思うことは『非正規雇用など不安定な雇用形態が増えていること』
- 『非正規雇用など不安定な雇用形態が増えていること』では、若い世代では割合が低く、年齢が高くなるにつれ、割合が高くなる傾向



4. 人権擁護・啓発に関する取り組みについて

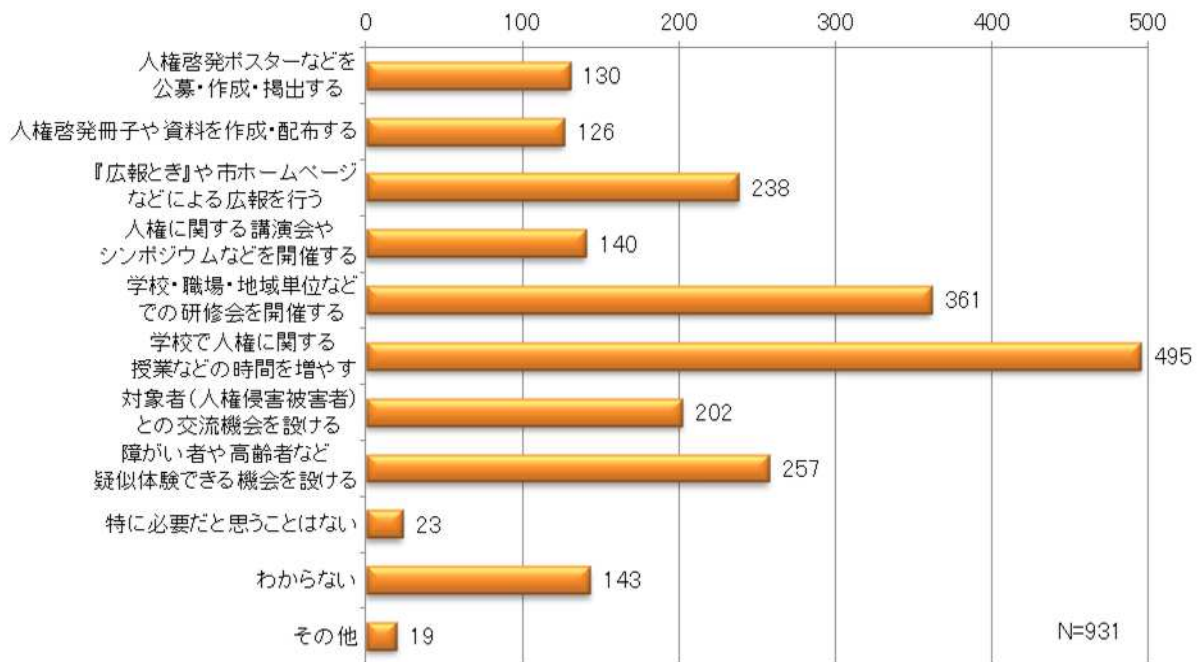
問 27 人権を守るために必要なこと

- 人権を守るために必要なことは『学校で人権を守るための教育を行う』が最も多い
- 『インターネット上での違法な情報発信に対し、情報の停止や削除を求める』で男女差が見られ、女性の割合が高い
- 『犯罪行為などの取締りや監視、罰則を強化する』では30歳代が最も高く、年齢が高くなるにつれ、割合が低くなる傾向



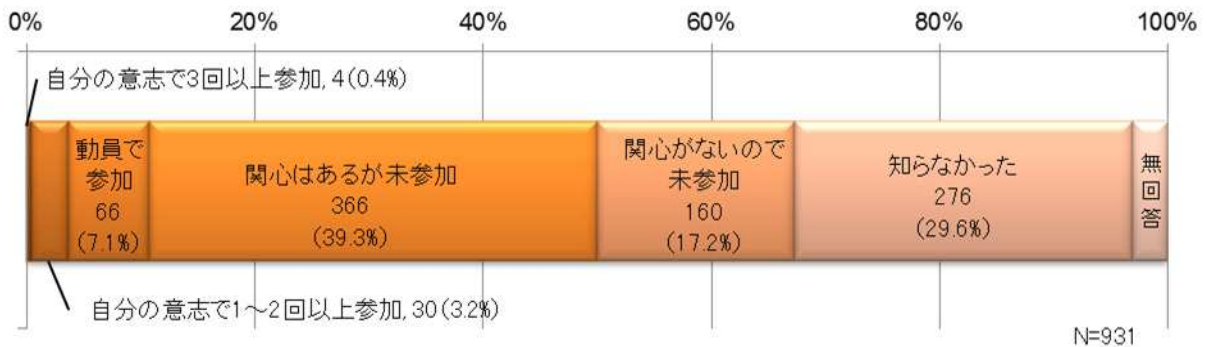
問 28 人権教育・人権啓発に必要なこと

- 人権教育・人権啓発のために必要なことは『学校で人権に関する授業などの時間を増やす』が最も多い
- 過去の調査と比較すると、『学校・職場・地域単位などでの研修会を開催する』及び『わからない』の割合が減少
- 『学校・職場・地域単位などでの研修会を開催する』、『対象者（人権侵害被害者）との交流機会を設ける』及び『障がい者や高齢者など疑似体験できる機会を設ける』では30歳代が最も高く、年齢が高くなるにつれ、割合が低くなる傾向



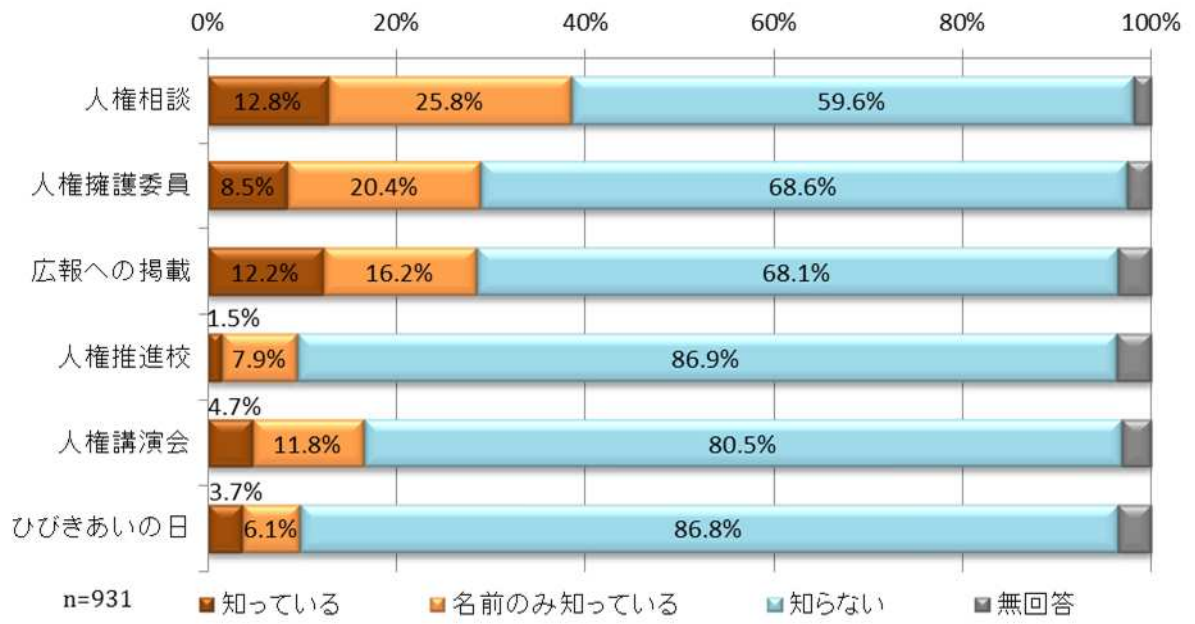
問 29 過去3年程度の間の人権問題に関する講演会や研修会などの参加状況

- 人権問題に関する講演会等への参加状況は『関心はあるが、参加したことはない』が最も多く、『講演会などの活動があること自体を知らなかった』が続く
- 過去の調査と比較すると、『講演会などの活動があること自体を知らなかった』の割合が増加
- 性別では女性が、年齢別では20歳代の参加の割合が高い



問 30 土岐市で実施している人権問題に関する取り組みの認知度

- 土岐市で実施している人権問題に関する取り組みについて、いずれの項目も『知らない』が半数以上
- 『知っている』の回答が最も多いのは「人権相談」、次いで「人権に関する広報などへの記事掲載」
- 過去の調査と比較すると、「人権相談」の割合が減少
- 20歳代は「人権推進校」及び「ひびきあいの日の実施」の『知っている』の割合が他の年代よりも高い



5. 自由意見

問 31 自由意見

■人権問題に関することについて、延べ 187 件の意見

■全般的なものを除く分野別では子どもの人権に関することが最も多い

項目	意見数	割合
人権全般に関すること	49	26.2%
人権教育・啓発に関すること	38	20.3%
子どもの人権に関すること	12	6.4%
アンケートに関すること	11	5.9%
行政（市の取り組み）に関すること	9	4.8%
インターネットによる人権侵害に関すること	7	3.7%
感染症患者等の人権に関すること	6	3.2%
女性の人権に関すること	5	2.7%
障がい者の人権に関すること	5	2.7%
働く人の人権に関すること	5	2.7%
相談・支援体制に関すること	5	2.7%
外国人の人権に関すること	4	2.1%
同和問題に関すること	3	1.6%
刑を終えて出所した人の人権に関すること	2	1.1%
性的少数者の人権に関すること	2	1.1%
個人情報（プライバシー）の保護に関すること	2	1.1%
高齢者の人権に関すること	1	0.5%
アイヌの人々の人権に関すること	1	0.5%
北朝鮮当局による拉致被害者等の人権に関すること	1	0.5%
ホームレスの人権に関すること	1	0.5%
その他	18	9.6%

主な意見（抜粋）

- ・人間は好き嫌いがあり、差別的な感情や思考を持ってしまうことは自然なことだと思う。差別をなくすのに一番大事なのは、差別的な思想を自分が持っているかもしれないと自覚して疑うこと、それを表に出さないこと、相手の思想や生活習慣が理解できなくても存在することを認めること。この2つが個人間の人権尊重において大切なことだと考える。
- ・人権は人として生まれながらに持っている当然な権利であるのに、そのものが問題になるとは妙なものです。人権に対する意識の向上とともに、思いやりの心で問題の起きない社会にしたいです。
- ・人権は守らなければならない権利ですが、罪を犯したら家族に迷惑がかかるから思い止まるなど差別などがあるから抑えられている部分もあると思います。さまざまな人権があるので、一括りに人権といっても、守ればいいものではない様な気がします。
- ・暗い問題として扱うのではなく、明るく前向きな発信をしてほしい。特別の問題ではなく、当

たり前のこと。人としてのモラルの一つとして認識を持ってもらえるよう知恵を絞ってほしい。

- ・人権侵害は確かに問題であるが、いたずらに規制や厳罰化をすべきではないと思う。
- ・過度に女性の人権の尊重を求めるメディア等があり、時々不快に感じます。今までの女性に対する扱いはいけないことが多くあったとは思いますが、行き過ぎた要求はよろしくない。男女平等を掲げるのであれば、できる限り男も女も平等であるべき。
- ・いじめや虐待については、学校だけでなく、勤務先などで講演を行うなど理解を深める活動がもっと必要だと思います。
- ・同和問題については、どんな地域、地区とかほとんど知りません。知らなければ差別も人権侵害もなくなっていくような気がして、子どもたちに伝えていくべきことなのかと疑問にさえ思います。しかし、差別を知らないまま成長するのではなく、知った上で差別をしない人格を作っていくのが必要なのだと、この文章を書きながら気付かされました。知ることから始めるのが人権学習であると思います。子どもたちには、なぜ知る必要があるのかを聞いて考えてほしい。
- ・加害者の人権を守りすぎて、被害者の人権を傷つけている場合がある。何の理由もなく人を殺したり、傷つけたりする人にも人権はないと思います。大したことでもないのに、やたら人権、人権と騒ぐ人がいる中で、もっと人権について深く考える必要があると思います。
- ・テレビでインターネットによる誹謗中傷する事件が放映されるなどネット社会が生んだ負の人生を生きる人たちが増えている。一日も早い法整備、規制の強化が望まれる。
- ・多様化する人権問題に対して、画一的な取組ではなかなか成果が出ません。一般の SNS による誹謗中傷から、命が奪われるような事案もあり、人権問題を真剣に考えていく世論の形成が不足しているのではないのでしょうか。
- ・性に対する差別などは、それ自体が普通のこと。LGBTQ に対してみんなの理解ができていることが当たり前の社会になること、その人たちも当たり前に結婚できたりする社会になってほしい。
- ・報道の自由とあるが、個人が特定されかねない報道はプライバシー侵害であり、矛盾が生じている。
- ・人権侵害を引き起こす原因は、「無知」と「偏見」。学校教育では定められた指導がきちんと実施されていると思うが、社会に出てから学ぶ機会が少ないと思います。企業や地域で輪番制でよいので悉皆の学習会を開くような取り組みをしない限り、人権への関心は高まらないと思います。
- ・ポスターや冊子などを作ったからといって、人権問題等が解決されるとは思いません。一人一人の人間が本当に差別していることがないか、しっかり自分自身に問いかけることが必要だと思います。
- ・人権問題は、自分の身近に起きないと真剣に考える人は少ないと思います。人権問題に関する集会、ポスター、本等に関心を持ってもらおうとしても、人が集まらない、印刷物も読んでもらえない、これが現実だと思います。どうしたら関心を持っていただけるかを考えるべき。アンケートを集計するだけでは進歩が無い、頑張ってください。
- ・差別意識は教育など、小さなころからやっつけていかないとなかなか正しい道へはいけないと思う

ので、教育で頑張ってもらえると嬉しいです。

- ・最近ではいろんな考えや身体的不利な人がいるということが、公にテレビなどで情報発信されていると思います。そのため、小学校や中学校のうちから教育の一つとしてその人達と接する機会を与えてあげることも大事だと感じます。
- ・市内でどのような人権に対しての問題があるか、また、件数や事例などを広報ときに詳しく掲載したら、市民は人権に対して問題意識を持つようになるのではないかと考えます。
- ・同和問題、アイヌ、ハンセン病元患者のことは、大人でも知らない人が多いと思う。それは学校での教育の機会が少ないからだと思う。それらの問題を教えられる機会が増えれば、理解が深まり、生きやすい世の中に近づくと思う。知らずに差別をするのはお互いに悲しい。土岐市にずっと住んでいるのに、土岐市で実施している取り組みを全く知らなかったです。講演会など、新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら聞いてみたいです。
- ・実際人権に関する問題が発生した場合、まずどこに相談したらよいか、その相談場所に迷うことがあるように思われます。問題が起こったらまずここに連絡してくださいというような広報があれば助かるのではないかと思います。